



Agentic Testing - 人×AIのCoworkが変えたQAプロセス

AIにQAの仕事は奪われる。3つの落とし穴の先に辿り着いた現在地

2026/03/20



Q & A

ご質問はセッション最後の Q&A タイムにお寄せください



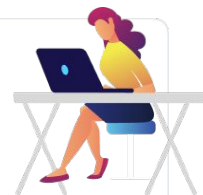
1人が、10人分を動かす時代が来た



NEW ROLE IN SILICON VALLEY GTMエンジニア



営業・マーケ・オペを1人で10x
分業されていたGTMプロセスを技術で統合



BUSINESS MODEL SHIFT ソロプレナー



開発・CS・マーケ・営業を1人で10x
AIツール群を指揮してプロダクト全体を運営

従来の「作業」はAIに代替され、全体を指揮する新しい役割が生まれている

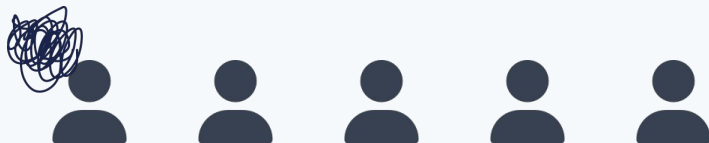
QAの世界でも10xの時代になる

QAは複数の専門作業をまたぐ「横断業務」であり、構造が同じためAIのレバレッジが強く効きます。

テスト設計 → 自動化 → 実行 → 分析 → 報告

従来

各工程に別の担当者がつくか、
膨大な工数が必要。



10xの未来 (Agentic Testing)

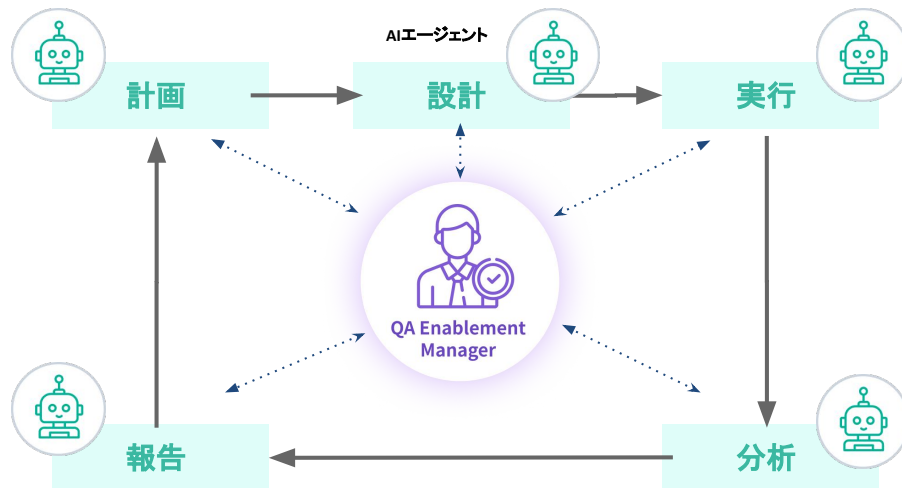
1人が全工程を
AIエージェントと共に操縦する。



Agentic Testing の定義

Agentic Testing

人間が『作業』するのではなく、
AIエージェントが自律的にテストを設計・実行・保守し、
人間はそれを『指揮・判断』する次世代のテスト手法



Autify AI Coworkerとは

Autify AI Coworker AIのパワーを、プロの舵取りで成果に変えるマネージドサービス。

Agentic Testing (実行): AIエージェントが自律的にテストを設計・実行・保守。「スピード」と「低コスト」を両立。

QA Enablement manager (指揮): ビジネス価値に基づき、戦略と品質を最適化。 AIでは届かない「高精度な品質」を担保。



人とAIのCoworkの本質



QA Enablement Manager

- ✓ AIを指揮・判断
- ✓ 見逃すリスク・違和感を補足
- ✓ AIの育成 (イネーブルメント)



COWORK



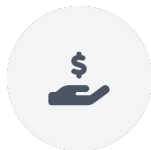
AI Agent

- ✓ テスト設計の自律立案
- ✓ テスト実行の完遂
- ✓ 自己修復と保守

❗ しかしこの理想に辿り着くまでに**3つの大きな課題**に対峙することに

Agentic Testingの実現までのリアル：我々が踏み抜いた3つの落とし穴

01



丸投げの落とし穴

DELEGATION TRAP

02



網羅の落とし穴

COVERAGE OBSESSION

03



改善の落とし穴

EXISTING TECH LIMIT

01. 丸投げの落とし穴 — 幻想

達成しなかったこと

「AIを使って効率よくテストケースを得る」

やったこと

🗨️ AIくん、XXサービスのテストケースを作って

結果 (3パターン)

パターンA
それっぽいテストケースが
たくさん出てきた

パターンB
欲しいテストケースが
出てこなかった

パターンC
欲しいテストケースが
出てきた (が、安定しない)

02.丸投げの落とし穴 — 現実

結果パターン	現場の状況	原因
A. それっぽいものが大量	レビュー対象が多く、効率が悪い	AIの選定基準が不明。 作らせている成果物が多すぎる
B. 欲しいものが出ない	期待する結果が得られるまで試行錯誤が発生	何をインプットに何を出すべきか、明確に伝えられていなかった
C. 出たが安定しない	同じプロンプトでも結果がブレる	プロンプトが長すぎて必要な文脈が欠落し、出力が不安定に

分析の結論

「テスト設計プロセス」の言語化が必要

自分の仕事の丸投げの落とし穴を突破する



アクション1

仕事を分割する

1つのタスクで多くを達成しようとせず、小さく分割する。

大きなタスク



小さな
タスク

小さな
タスク

小さな
タスク



アクション2

仕事の仕方を言語化する

前提・インプット・処理内容・アウトプットを明文化し、AIにわたす。

頭の中の
暗黙知



- ✔ インプット定義
- ✔ 処理ルールの明記
- ✔ 出力フォーマット

01.丸投げの落とし穴 — 成果

- ✔️ アウトプットが小さくなり、レビュー負荷が下がった
- ✔️ AIが自分と同じ方法で仕事するため、成果物の妥当性を判断しやすくなった
- ✔️ どのプロンプトがどう作用するか見通しが良くなり、コントロールしやすくなった

求める成果物を安定して得やすくなった



「AIを使って効率よくテストケースを得る」を達成

仕様を完全に網羅したテストケースを作り、
AIで爆速消化すれば
『**良いテスト**』になる

02.「網羅の落とし穴」～現実

事実 1

仕様書をどんなに網羅しても「良いテスト」にはならない。そもそも全数テストは不可能（テストの7原則）。

事実 2

経験あるQAエンジニアがテスト中に気づく「違和感」や「テストケース外の不具合」にこそ、深刻で価値のあるバグが含まれる。

核心となる問題

AIにすべてを委ねると、現場での「違和感」を見過ごすことになる

02.「網羅の落とし穴」の落とし穴 ~ 突破口

人間だけの価値 = 違和感

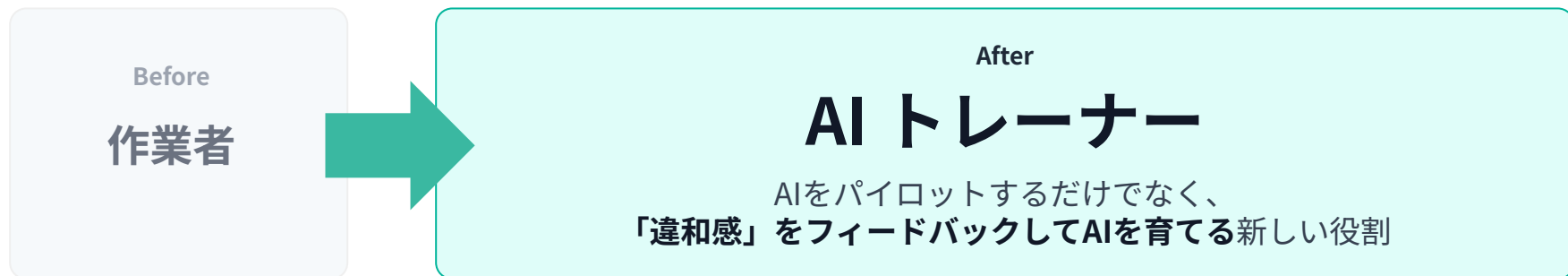
長年の経験、複雑な文脈の理解、生身の人間だからこそ感じられる機微。

AIには「正解」は出せても「違和感」は出せない。

アクション = 教え込む

AIに全部任せるのではない。

AIが出した結果に対して、人間が感じた「違和感」をフィードバックして育てる。



(参考)違和感の例

違和感 01

暗黙の業務知識に 感じる違和感

業界の常識となっているような、例えば法令などの仕様書に明文化されないもの

違和感 02

UIとしては仕様通りだが ユーザー体験視点で 感じる違和感

画面定義通りに実装されている、ただし、IME制御がユーザー体験を損なっている等

違和感 03

明記されていない 組み合わせを感じる 違和感

- 状態とイベントの組み合わせ
- 条件と動作の組み合わせ等

③「改善の落とし穴」～幻想

DOMやアクセシビリティ情報を使った
構造ベースの自動化を、
AIの力で強化していけば
できなかったテストがどんどんできるようになる

</>

HTMLを読んでボタンを見つけるアプローチの延長線

③「改善の落とし穴」～現実

✓ できたこと

- AIにより要素特定やロケータ保守は改善
- 「壊れたテストの自動修復」も部分的に実現

✗ できなかったこと

- Canvas や WebGL で描かれた画面
HTMLの要素として存在しないので見えない
- CSS崩れによる見た目の異常
HTML上にボタンがあれば「成功」判定になる

根本的な限界

HTMLの構造を読む限り、
「目に見えるもの」と「構造上存在するもの」のギャップは埋められない

③「改善の落とし穴」 ~ 突破口

従来のアプローチ

HTMLの構造を読む

要素を見つけて操作する

限界： 構造にないものは見えない

パラダイムシフト



新しいアプローチ

人と同じ「目」で画面を見る

スクリーンショットを
画像として理解する

突破： 構造に関係なく、
見えるものすべてが対象

マルチモーダルAI (画像を理解できるAI) の登場がこのシフトを可能にした

③「改善の落とし穴」～突破の先に見えた世界

「画面を見る」AIが変える4つのこと

1 プログラミングが不要になる

テストの指示を自然言語（日本語）で書くだけ。スクリプトを1行も書かなくていい。

2 これまで不可能だったものがテストできる

Canvas、WebGL、複雑なCSSレイアウト。構造に依存しないから全部見える。

3 「見た目のおかしさ」に気づける

機能は動いていてもレイアウトが崩れている等、人間なら一目で分かる視覚的な異常をAIも検知できる。

4 メンテナンスが激減する

HTMLの構造が変わっても、見た目が同じなら動き続ける。「IDが変わって全部壊れた」はもう起きない。

これまでの経験を踏まえて作り上げた
AI Coworker / Agentic testingの流れ

テストエンジニアのテストプロセスを AI に伝える

(AI による暗黙的な処理)

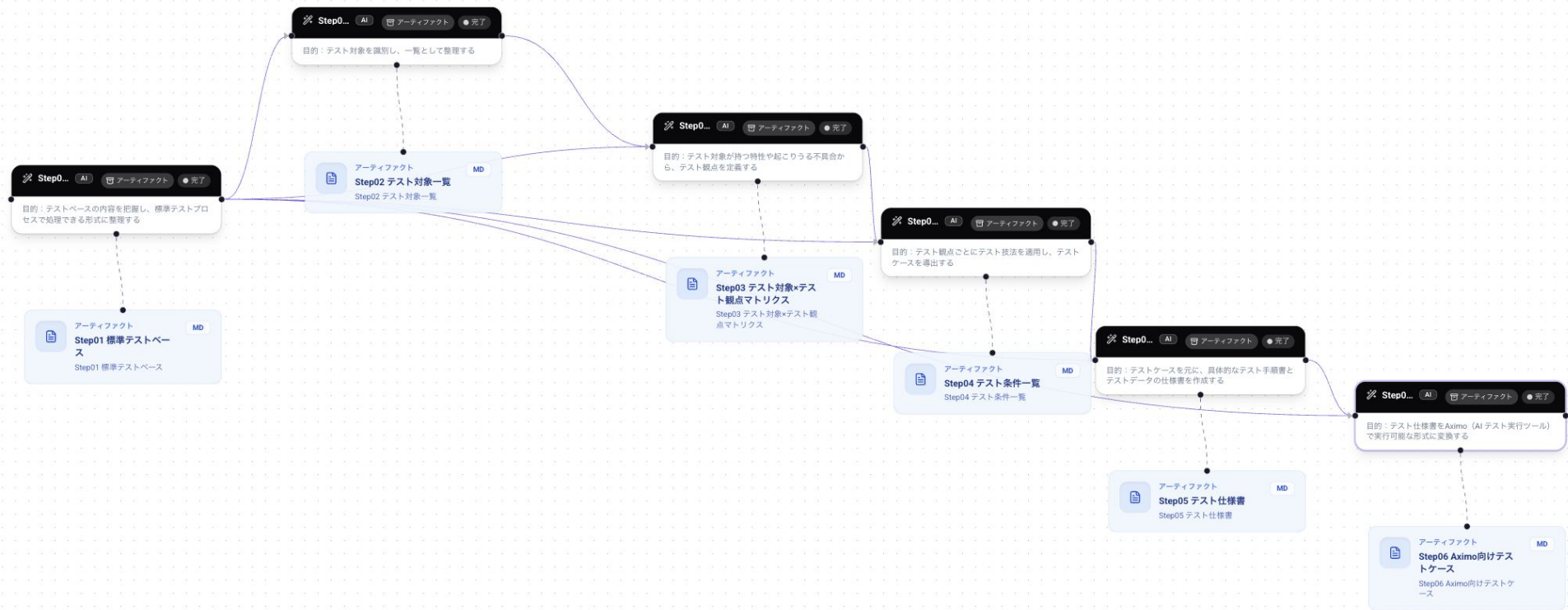


プロセスを定義

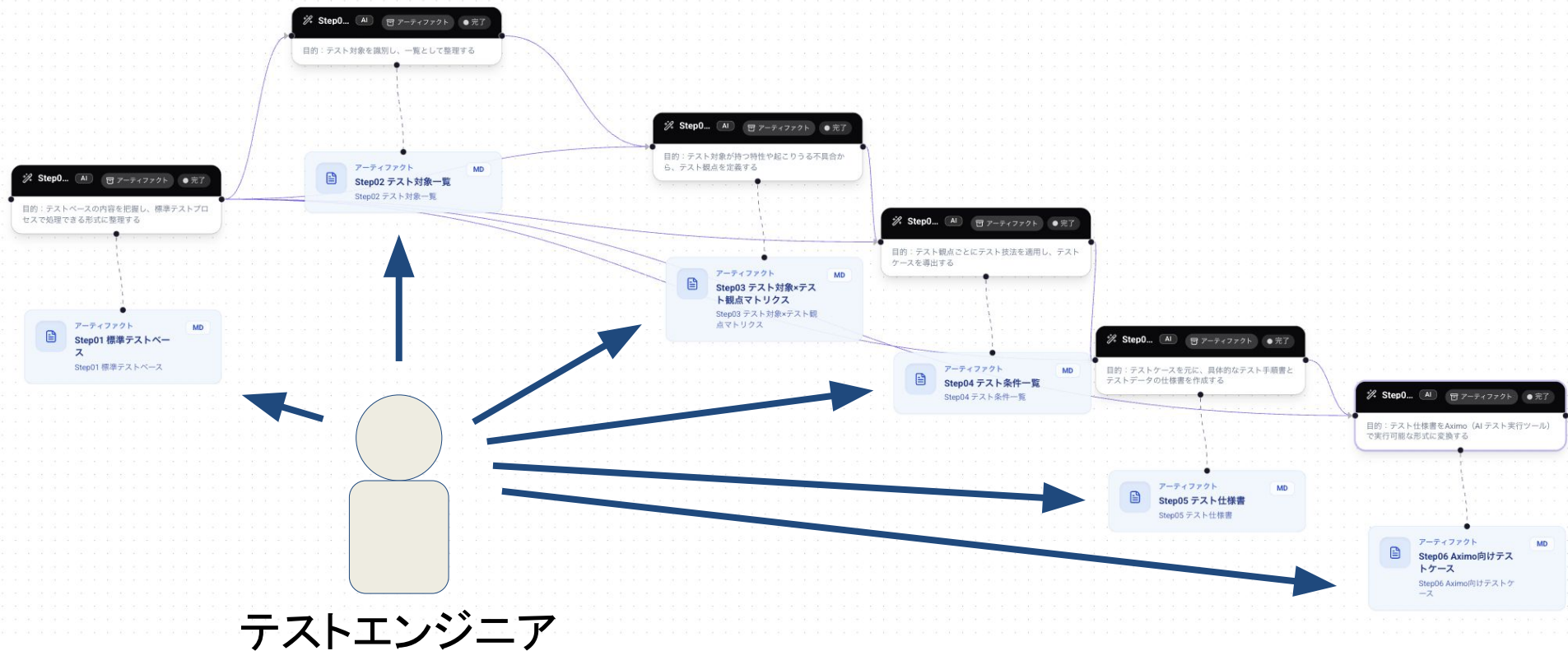
コンテキストも参照できるようにする



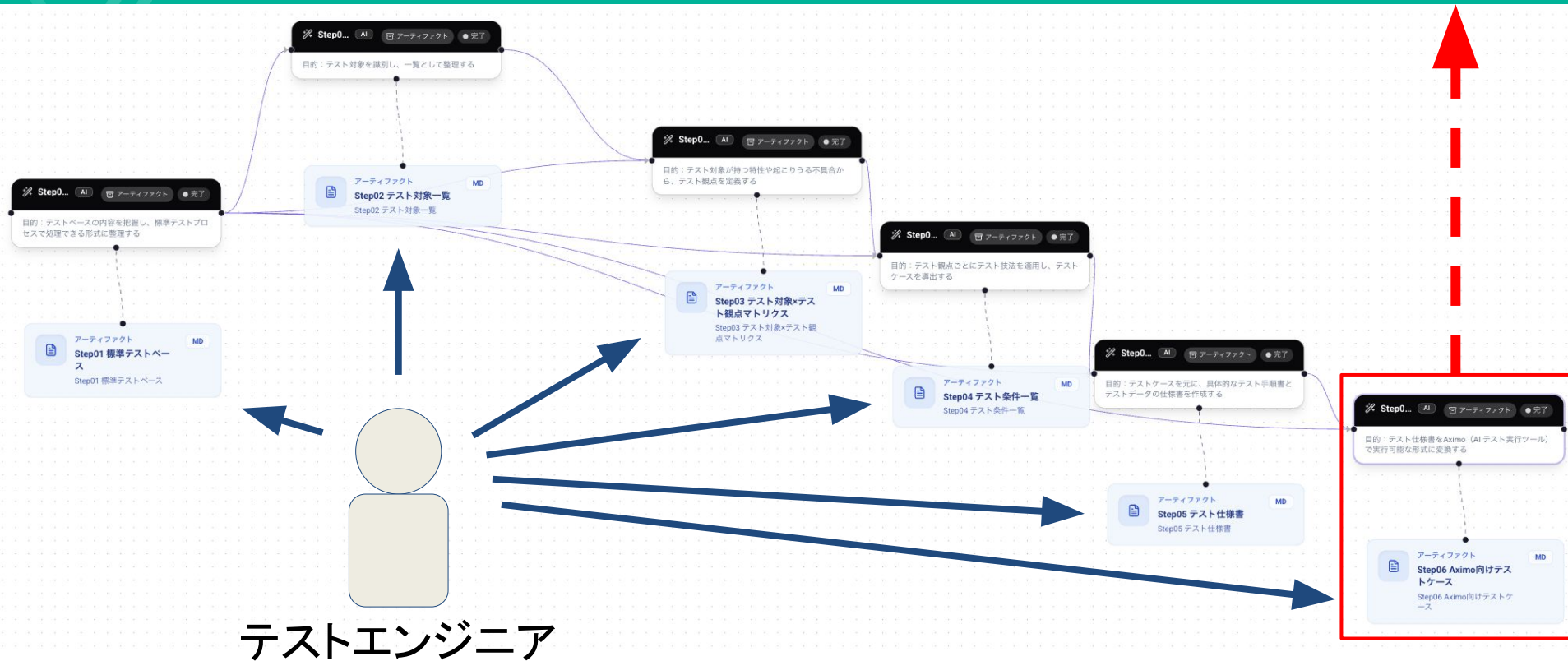
テスト設計エージェントの UI



工程ごとの成果物をテストエンジニアがレビュー



作成されたテストケースは実行工程へ



テスト実行エージェントへ

J JaSST Tok... 7

デ デフォルトワ...

ケース

セッション

プラン

メモリー

ケース

+ 新規ケース

Q ケースを検索...

すべてのタイプ

Showing 1-16 of 16

タイプ	タイトル	作成者	最終実行	ステータス	操作
Web	会員登録 - 必須項目不備・既存メールによる登録失敗	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 
Web	カート編集 - 在庫切れ・価格変更によりそのまま購入に進めない	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 
Web	カート編集 - カート内商品と金額を確認し不要な商品を削除する	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 
Web	カート追加 - 数量や商品を調整して再度追加する回復	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 
Web	カート追加 - 在庫不足などにより商品の追加に失敗する	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 
Web	カート追加 - 検討中の商品を数量指定でカートに追加する	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 
Web	商品詳細表示 - 選択した商品の詳細情報を確認する	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 
Web	商品探索 - 条件不適切により目的の商品を見つけられない	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 
Web	商品探索 - 一覧・検索・カテゴリ/ブランド絞り込みで購入候補を見つける	kazunari.muraho@autify.com	-	-	 

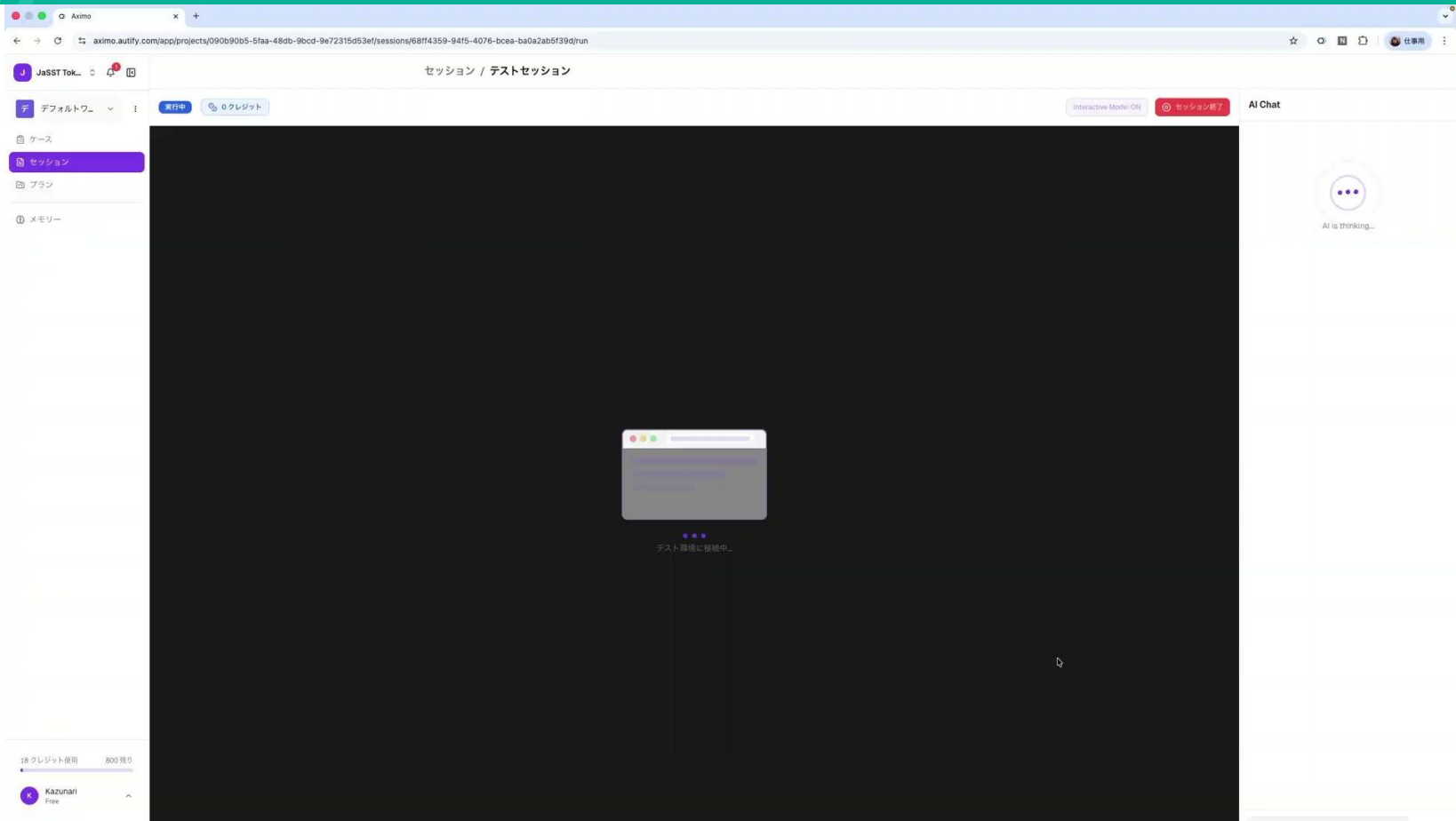
252 クレジット使用

64 残り

27

K Kazunari
Free

エラーメッセージが表示されることをテストしている様子



エラーメッセージが表示されることをテストしている様子

A Autify 9+

実行中

112.0 クレジット

Interactive Mode: OFF

セッション終了

AI Chat

2 20260313_M...

ケース

セッション

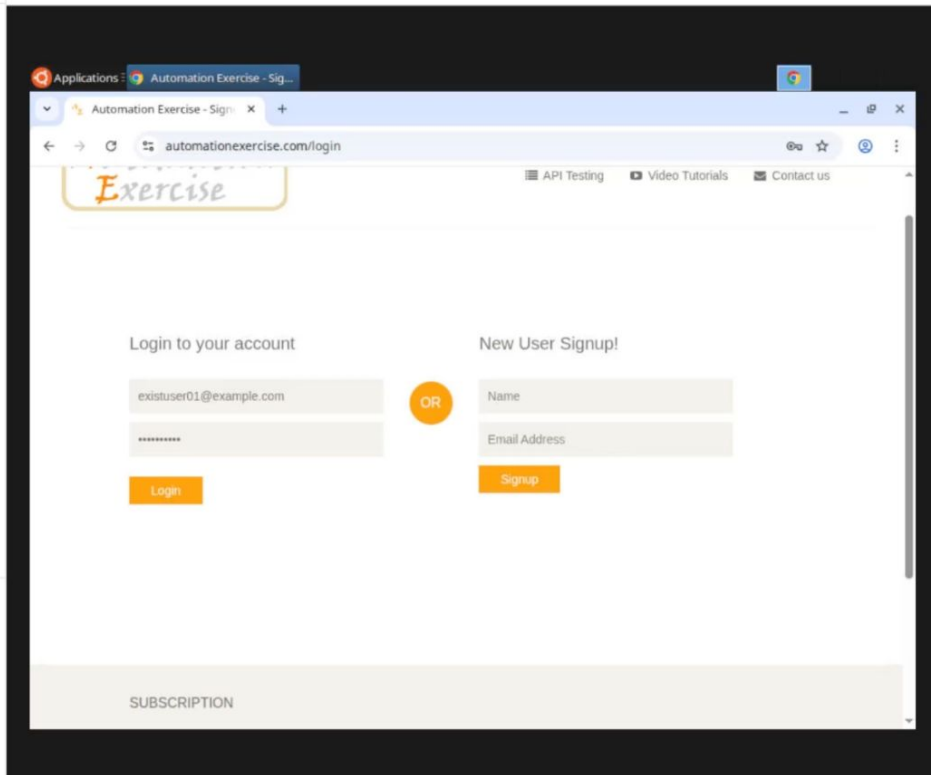
プラン

メモリー

3,172 クレジット使用 724 残り

K Kazunari
Free

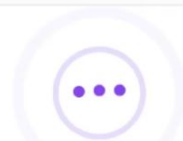
29



スクロールした結果、Loginボタンがオレンジ色に戻りました。下方にはSUBSCRIPTIONセクションが表示されています。エラーメッセージは表示されていません。念のため、「Login to your account」セクションの見出し部分を確認するため、上にスクロールします。

✓ scroll up x2 at (255, 300) (0ms)

✓ screenshot

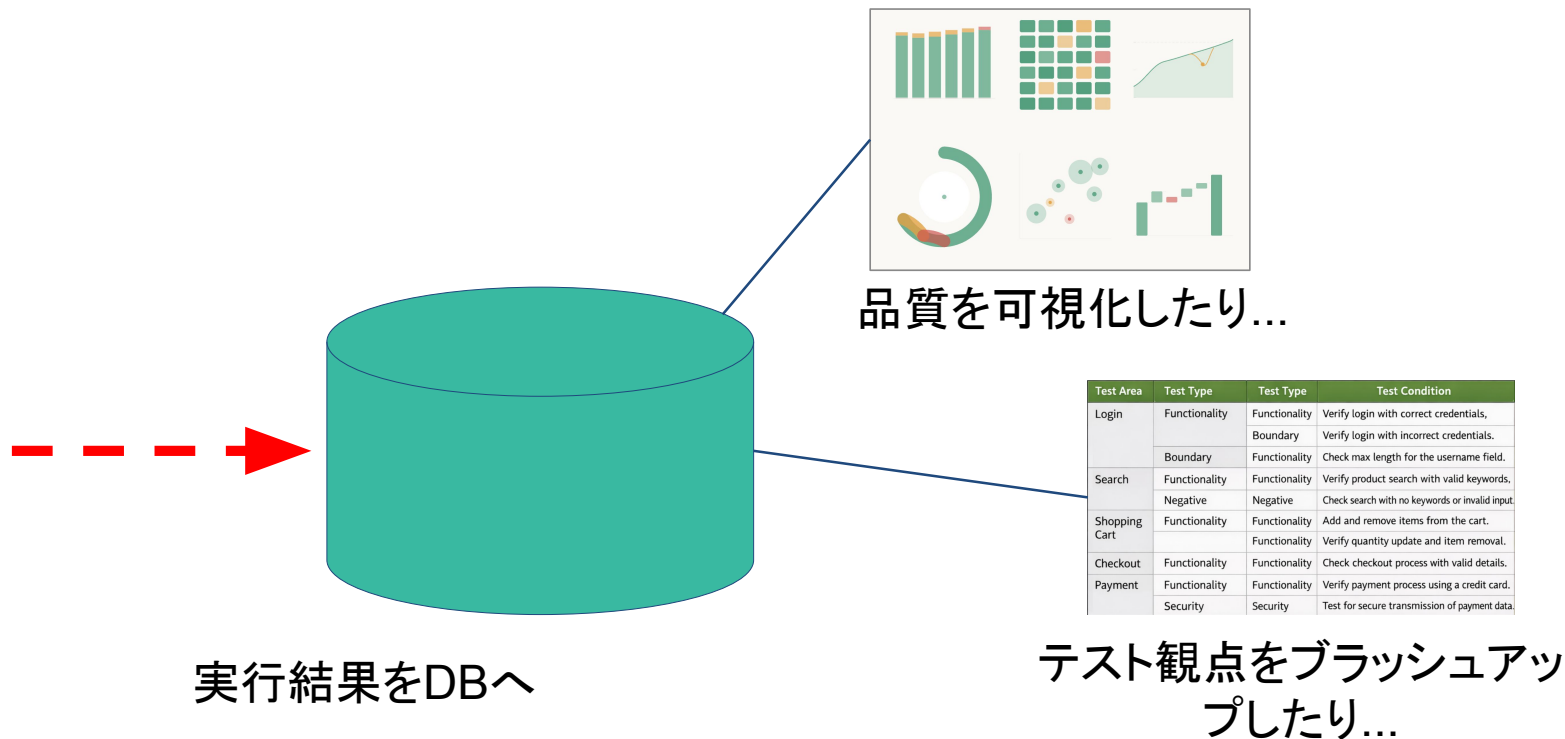


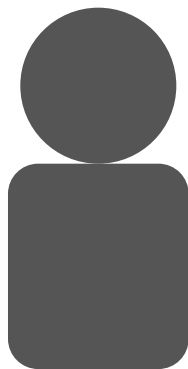
AI is thinking...

Send a message to the AI... (Enter = send, Shift+Enter = newline)

Send

結果はDBへ蓄積され分析や改善活動に利用





テストエンジニア

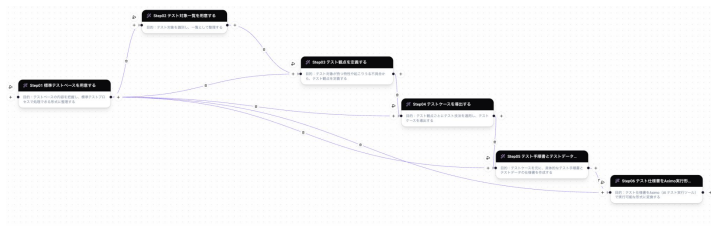


テスト設計やテスト実行の
遂行

これからのテストエンジニアの仕事



AIエージェント

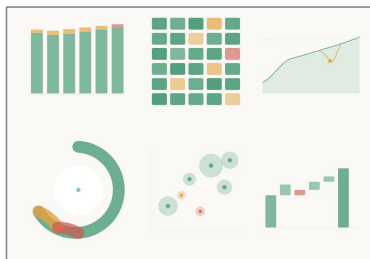


テスト設計やテスト実行

イネーブルメント
(育成)



テストエンジニア



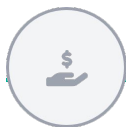
Test Area	Test Type	Test Type	Test Condition
Login	Functionality	Functionality	Verify login with correct credentials.
	Boundary	Boundary	Verify login with incorrect credentials.
Search	Functionality	Functionality	Check max length for the username field.
	Negative	Negative	Verify product search with valid keywords.
Shopping Cart	Functionality	Functionality	Check search with no keywords or invalid input.
	Functionality	Functionality	Add and remove items from the cart.
Checkout	Functionality	Functionality	Verify quantity update and item removal.
	Functionality	Functionality	Check checkout process with valid details.
Payment	Functionality	Functionality	Verify payment process using a credit card.
	Security	Security	Test for secure transmission of payment data.

人間にしかできないテストの遂行や
より上流の分析・改善活動

3つの落とし穴を越えて、辿り着いた答え

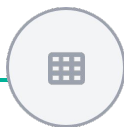
Next Section

3つの落とし穴を越えて、 辿り着いた答え



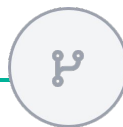
Pitfall 01

丸投げの落とし穴



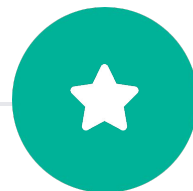
Pitfall 02

網羅の落とし穴



Pitfall 03

改善の落とし穴

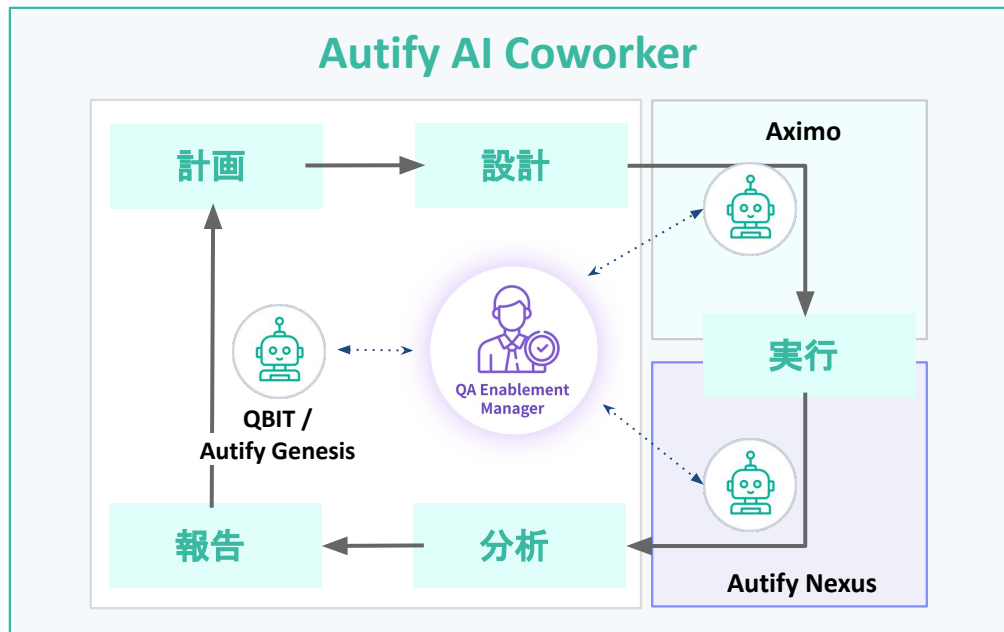


Destination

**Agentic Testing
の完成品**

Agentic Testingを手軽に実現 = Autify AI Coworker

人間が『作業』するのではなく、AIエージェントが自律的にテストを設計・実行・保守し、人間はそれを『指揮・判断』する次世代のテスト手法



時間をツール構築に使うか、品質に使うか

BUILD

自分で作る道

LLM技術キャッチアップ

技術は月単位で陳腐化する

終わりのないR&D投資

プロンプト設計、評価基盤、精度改善…

3つの落とし穴を自力で踏み抜く

多大な時間とコストの浪費、車輪の再開発

RESULT

QAチームが「AIツール開発チーム」になる

LEVERAGE

既にある型を使う道 - e.g. Autify AI Coworker

- ✓ 技術キャッチアップは Autify が担う
常に最新の技術とAIモデルを利用可能
- ✓ 1年分の「落とし穴と型」は解決済み
成功パターンが実装されている
- ✓ 初日から Cowork を開始できる
AIオンボーディングもお任せで最速で使える

RESULT

QAチームが「品質」にフォーカスし続けられる

ゴールは品質を守ること - 道具を作るのか。道具を使うか。

QBIT — テスト設計を 3.3倍に加速

Before

シニアQAエンジニアが仕様書を読み込み、テスト設計。

30-40 時間

After (Autify Genesis)

標準化したテスト設計の「型」でAIに設計させる。
人間はレビューのみ。

12 時間

突破口 — 極小単位への分割 × 中間すり合わせ

Aximo — 手動テストを代替する AIエージェント

54

複雑なテストシナリオ

96.3%

初回実行精度

0行

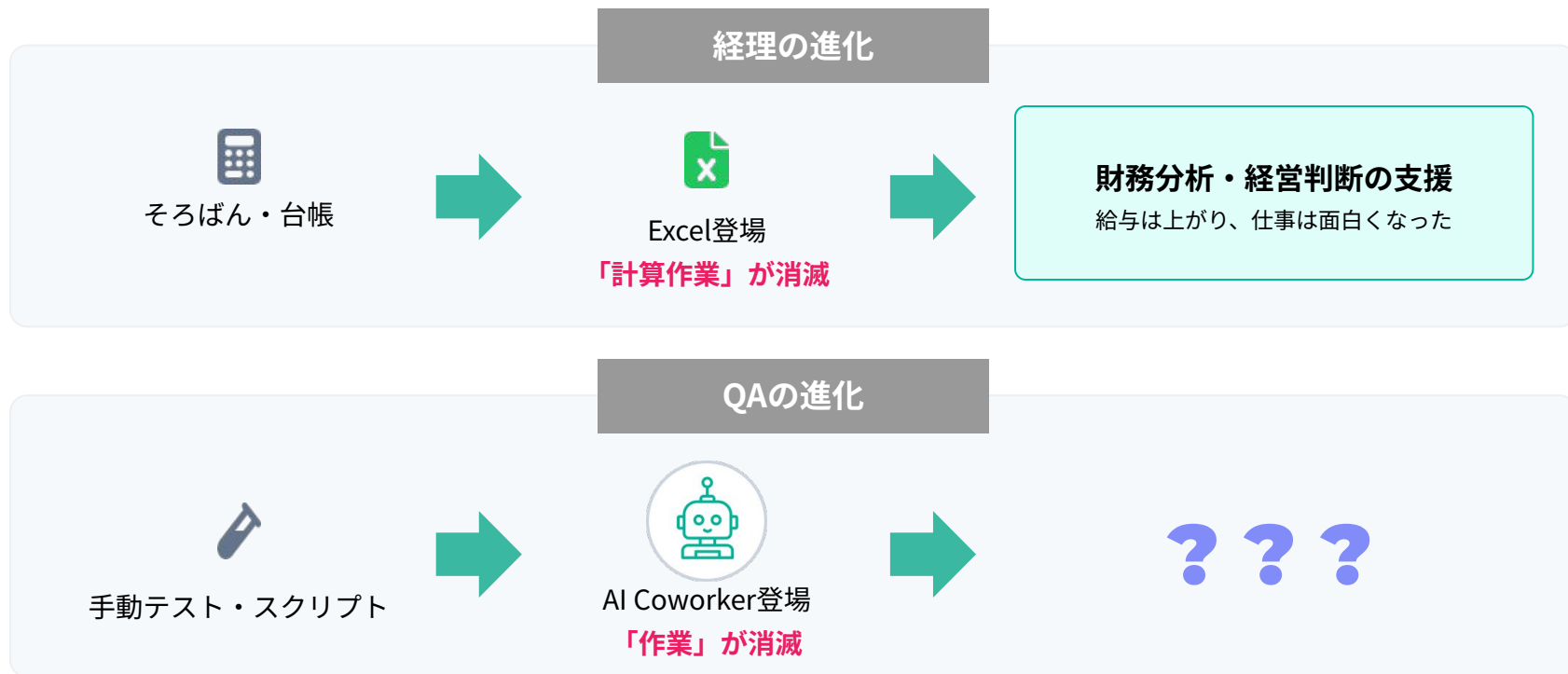
書いたスクリプト

-49%

人間の実質拘束時間

突破口 — 「自然言語」 × 「Visual認識」

「作業」が消えることは、歴史上何度も起きてきた



「作業」としてのQAは、AIに奪われる。

MANUAL EXECUTION / MAINTENANCE / SCRIPTING



Paradigm Shift

AI Coworker で **Agentic Testing** を実現し、
1人の力で組織全体の品質に
レバレッジをかける人材が誕生する。

QA Enablement Manager の3つの力

GTMエンジニア

QA Enablement Manager

1

営業サイクル全体の理解

品質保証プロセス全体の理解

何をAIに任せ、何を人が判断するか。この線引きはQAのプロにしかできない。

2

技術的思考力
(API, データフロー, ワークフロー設計)

テストアーキテクチャ設計力

AIエージェント群を組み合わせて品質保証の「仕組み」を設計する力。

3

AIで実務を回した実績

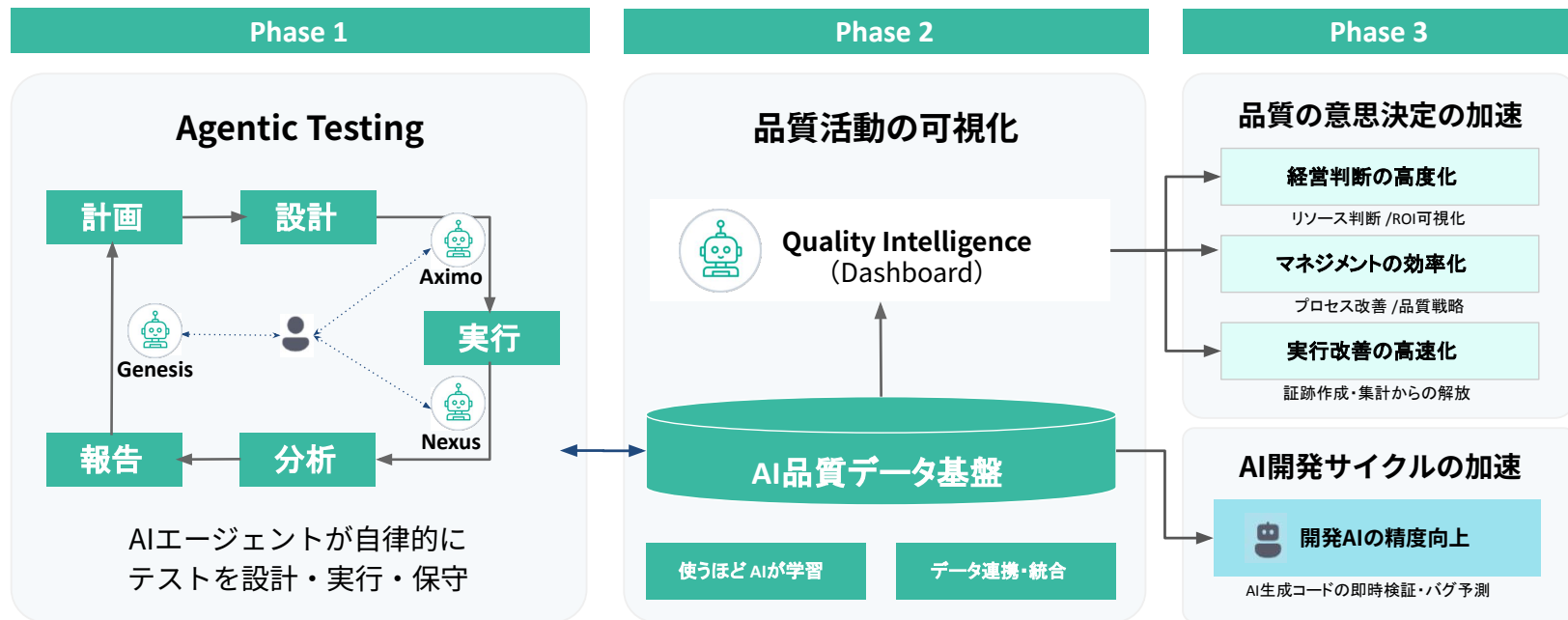
AIでテスト業務を実際に回した実績

「知っている」ではなく「回した」。この差が大きな価値を生む。

これまでのQAエンジニアとしての経験・知識が 10x QAエンジニアを生み出す

オペレーション × AI の次は、可視化と意思決定支援へ

更に先の未来 - QA AX (QAのAI変革) とは



AIエージェントを使いこなす、“新しい形のQAエンジニア”の必要性が更に高まる

AI Coworker で **Agentic Testing** を実現し、

作業はAIに渡す。

あなたの**経験と判断力**で、**品質の未来**を作る

Next Steps

新しいQAの形を共に作りませんか



Autify AI Coworkerを始める

AI Coworker で Agentic Testing を始める



品質AXドックを申し込む (無料)

AIエージェント導入の現場の課題と一緒に相談 AI活用の最適解を診断



AutifyでQA Enablement Managerになる

Autifyで共にAgentic Testing をリードする

テストの「どこに課題があるか」 チームの課題を診断しませんか？

まずは現在のQA体制の課題を可視化することから始めましょう。
専門スタッフによる**品質AXドック(無料)**を承っています。

まずは以下のボタン or QRコードより
お気軽にご相談ください

[今すぐ無料診断・ご相談](#)



成果を最短化する導入ステップ

STEP 01 詳細診断

- 2回のヒアリングを通して、現場で起きている複雑な状況をプロの視点で紐解きます。
- テストの「どこに課題があるか」を特定し、ボトルネックの構造を分析。

STEP 02 導入

- 実際のアプリで、AIがどれだけテストを肩代わりできるか整理し、今あるテストの手順をどう自動化できるか、具体的な範囲と移行スケジュールを明確にして進めます。

STEP 03 本格稼働・最適化

- テストの戦略から実行まで「丸投げ」できる体制を構築します。
- お客様は弊社がまとめたレポートを確認し、リリースの最終判断を下すだけ。テストに追われる日々は終わります。



お問い合わせ sales@autify.com